

どんな職業か

検査工は、工作機械等で加工された部品や製品を測定し加工精度が規格値を満たしているかを検査する。
 まず、加工された工作物の図面内容を理解し、要求される寸法・形状や幾何偏差等の精度について、三次元測定機やマイクロメーター、ダイヤルゲージ等の測定器具から測定精度や検査内容に合った適切な測定器具を選択し、工作物を測定して良品・不良品の判断を行う。不良があった場合は、なぜ不良が発生したのかを測定データや加工条件などから解析し、原因を突き止め不良ゼロを追求する。

検査終了後、工作物の測定データを検査成績書などにまとめる。不良が発生した場合は、検査成績書と解析結果を加工工程にフィードバックし、今後不良が発生しないように再発防止に努める。

また、加工された部品などを組付け、製作された機械が決められた動作をするかを測定し、規格値を満たしているかを検査する。

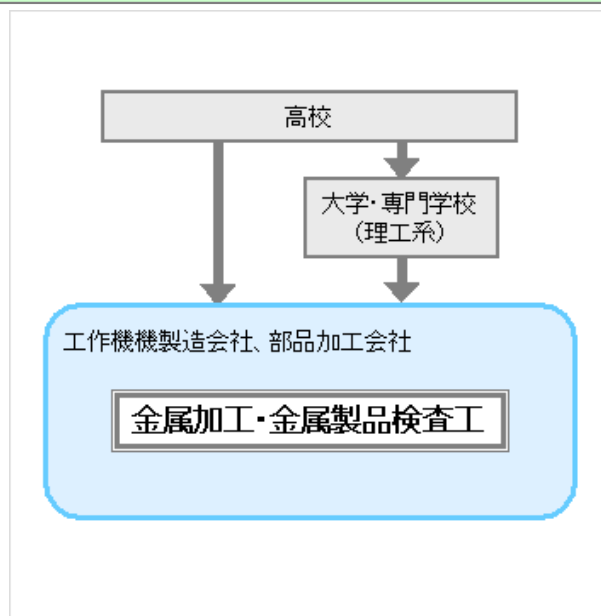
就くには

入職にあたっては、特別な資格などは必要とされないが、測定の基礎や加工知識などを身に付けている人が求められる。入職後は、最初に測定理論やQC手法を身に付け、機械要素や材料力学等の幅広い知識を習得し、測定器具の種類や構造を実際に測定することから、その取り扱い方法を身に付ける。

また、近年では工作機械のめざましい発展により部品形状が複雑化し、要求精度が高精度化しているため、三次元測定機等の精密測定機を使用し、より精密で効率の良い測定を行い、評価するスキル・知識を測定の過程で習得する。

これらの知識を習得することにより、測定器具の校正作業や部品・製品の検査・評価を行う外注先の企業等への転職も可能である。

関連する資格としては、厚生労働省が実施する技能検定の「機械検査技能士」の資格があり、取得すると技術の証明として評価される。



労働条件の特徴

ほとんどの検査工は、製造企業に所属し工場に勤務している。労働環境は、恒温室等の温度が一定に保たれた室内や加工現場での労働となる。

知識や技能を持つ経験豊かな作業者の割合が高いが、近年では測定機等の発展により、若い作業者でも高精度の測定を行えるようになり、その数も増えつつある。

勤務体系は、朝から夕方までの日勤が一般的であるが、生産量に応じて日勤・夜勤の交代制を取ることもある。

参考情報

関連資格 機械検査技能士